

10/530368
PCT/JP03/12564

Rec'd. CT/PTO 06 APR 2005
01.10.03

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付事項の同一であることを証明する事項は下記の出願書類に記載されて

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月10日
Date of Application: 2002年10月10日

出願番号 特願2002-297534
Application Number: 特願2002-297534

[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 2 9 7 5 3 4]

出願人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

REC'D 21 NOV 2003

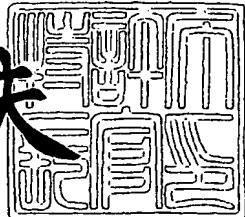
WIPO / PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月 7日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2003-3092043

【書類名】 特許願
【整理番号】 2903140055
【提出日】 平成14年10月10日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H04B 7/26
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 松下通信
工業株式会社内
【氏名】 須藤 浩章
【特許出願人】
【識別番号】 000005821
【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社
【代理人】
【識別番号】 100105050
【弁理士】
【氏名又は名称】 鶴田 公一
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 041243
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9700376
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 マルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 送信データを良好な品質を要求される高品質送信データと前記高品質送信データ以外の通常送信データとに分ける分割手段と、中心周波数付近のサブキャリアに前記高品質送信データが配置されるように前記送信データを並び替える並び替え手段と、前記並び替え手段により並び替えた前記送信データを直交周波数分割多重して各サブキャリアに配置する直交周波数分割多重手段と、を具備することを特徴とするマルチキャリア送信装置。

【請求項 2】 前記送信データを拡散する拡散手段を具備することを特徴とする請求項 1 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 3】 前記拡散手段は、前記高品質送信データと前記通常送信データとの拡散率を独立して設定することを特徴とする請求項 2 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 4】 前記拡散手段は、前記高品質送信データの拡散率を前記通常送信データの拡散率よりも大きくすることを特徴とする請求項 2 または請求項 3 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 5】 前記高品質送信データと前記通常送信データとの符号多重数を独立に設定することを特徴とする請求項 2 から請求項 4 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 6】 前記高品質送信データの符号多重数を前記通常送信データの符号多重数よりも少なくすることを特徴とする請求項 2 から請求項 5 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 7】 前記高品質送信データと前記通常送信データに割り当てる拡散符号数を独立に設定することを特徴とする請求項 2 から請求項 6 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 8】 前記高品質送信データに割り当てる拡散符号数を前記通常送信データに割り当てる拡散符号数よりも多くすることを特徴とする請求項 2 から請求項 7 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 9】 前記高品質送信データと前記通常送信データとを各々独立して設定した変調方式を用いて変調する変調手段を具備することを特徴とする請求項 1 から請求項 8 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 10】 前記変調手段は、前記高品質送信データまたは前記通常送信データのいずれか一方の変調方式を固定にし、前記高品質送信データまたは前記通常送信データのいずれか他方の変調方式を適応的に変化させることを特徴とする請求項 9 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 11】 前記変調手段は、前記高品質送信データと前記通常送信データとの両方の変調方式を適応的に変化させることを特徴とする請求項 9 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 12】 前記変調手段は、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて変調方式を選択することを特徴とする請求項 9 から請求項 11 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 13】 前記高品質送信データと前記通常送信データとを独立してインタリープするインタリープ手段を具備し、前記並び替え手段は、インタリープ後の前記送信データを並び替えることを特徴とする請求項 1 から請求項 12 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 14】 前記並び替え手段は、直流点を含むサブキャリアに前記通常送信データが配置されるように前記送信データを並び替えることを特徴とする請求項 1 から請求項 13 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 15】 前記高品質送信データの送信電力を前記通常送信データの送信電力よりも高く設定する送信電力設定手段を具備することを特徴とする請求項 1 から請求項 14 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 16】 前記送信電力設定手段は、前記高品質送信データと前記通常データの送信電力を可変にて設定することを特徴とする請求項 15 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 17】 前記送信電力設定手段は、前記高品質送信データ若しくは前記通常送信データとのいずれか一方の送信電力を可変にて設定することを特徴とする請求項 15 記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 18】 前記送信電力設定手段は、送信電力を回線品質に応じて変化させることを特徴とする請求項 15 から請求項 17 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 19】 前記直交周波数分割多重手段は、隣接チャネル干渉波受信レベルが高くなるほど前記高品質送信データを配置するサブキャリアの範囲を狭くすることを特徴とする請求項 1 から請求項 18 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 20】 前記送信データをターボ符号化する符号化手段を具備し、前記高品質送信データは、システムティックビットデータであり、前記通常送信データは、パリティビットデータであることを特徴とする請求項 1 から請求項 19 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 21】 前記高品質送信データは、遠く離れた通信相手へ送信する送信データであり、前記通常送信データは、近くの通信相手へ送信する送信データであることを特徴とする請求項 1 から請求項 19 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 22】 前記高品質送信データは、通信制御に使用される情報若しくは再送情報であることを特徴とする請求項 1 から請求項 19 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置。

【請求項 23】 請求項 1 から請求項 22 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置を具備することを特徴とする基地局装置。

【請求項 24】 請求項 1 から請求項 22 のいずれかに記載のマルチキャリア送信装置を具備することを特徴とする通信端末装置。

【請求項 25】 送信データを良好な品質を要求される高品質送信データと前記高品質送信データ以外の通常送信データとに分ける工程と、中心周波数付近のサブキャリアに前記高品質送信データが配置されるように前記送信データを並び替える工程と、並び替えた前記送信データを直交周波数分割多重して各サブキャリアに配置する工程と、を具備することを特徴とするマルチキャリア送信方法。

【請求項 26】 前記送信データを拡散する工程を具備することを特徴とす

る請求項25記載のマルチキャリア送信方法。

【請求項27】 前記高品質送信データと前記通常送信データとを各々独立して設定した変調方式を用いて変調する工程を具備することを特徴とする請求項25または請求項26記載のマルチキャリア送信方法。

【請求項28】 隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて変調方式を選択する工程を具備することを特徴とする請求項27記載のマルチキャリア送信方法。

【請求項29】 前記高品質送信データは、遠く離れた通信相手へ送信する送信データであり、前記通常送信データは、近くの通信相手へ送信する送信データであることを特徴とする請求項25から請求項28のいずれかに記載のマルチキャリア送信方法。

【請求項30】 前記高品質送信データと前記通常送信データとを独立してインタリーブする工程を具備することを特徴とする請求項25から請求項29のいずれかに記載のマルチキャリア送信方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、マルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

誤り訂正符号化方式にターボ符号があり、3GPPで標準化として採用されている（例えば、特許文献1参照。）。このターボ符号は、他の誤り訂正方式と比較すると、非常に良好な誤り率特性がえられることが特徴である。

【0003】

また、第4世代に有効な通信方式としてOFDMがあり、第4世代の通信方式として有力視されている。一方、OFDMは、干渉波が存在すると全く通信できなくなるため、逆拡散処理により他のセルからの干渉を低減することにより、他のセルからの干渉波が存在する場合でも通信可能であるCDMAとOFDMとを組み合わせたOFDM-CDMA通信方式が知られている。

【0004】

このように、ターボ符号化とOFDM通信方式との組み合わせ若しくはターボ符号化とOFDM-CDMA通信方式との組み合わせを用いることにより、誤り率特性を向上させることができる。

【0005】

【特許文献1】

特開2002-217748号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来のマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法においては、ターボ符号化とOFDM通信方式若しくはターボ符号化とOFDM-CDMA通信方式を組み合わせることによりある程度誤り率特性を向上させることができるが、複数のチャネルを用いて同時に送信する場合においては、異なるチャネル同士の送信信号が干渉し合うため、誤り率特性の向上に限界があるという問題がある。

【0007】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を格段に向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明のマルチキャリア送信装置は、送信データを良好な品質を要求される高品質送信データと前記高品質送信データ以外の通常送信データとに分ける分割手段と、中心周波数付近のサブキャリアに前記高品質送信データが配置されるように前記送信データを並び替える並び替え手段と、前記並び替え手段により並び替えた前記送信データを直交周波数分割多重して各サブキャリアに配置する直交周波数分割多重手段と、を具備する構成を探る。

【0009】

この構成によれば、高品質送信データを、隣接チャネル干渉波の影響の少ない

中心周波数付近のサブキャリアに配置したので、伝送効率を低下させずに、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができる。

【0010】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記送信データを拡散する拡散手段を具備する構成を探る。

【0011】

この構成によれば、送信データは、CDMAとマルチキャリアとを組合わせた通信方式により送信されるので、周波数利用効率及び伝送効率を低下させずに、他のセルからの干渉が存在する場合でも誤り率特性を向上させることができる。

【0012】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記拡散手段は、前記高品質送信データと前記通常送信データとの拡散率を独立して設定する構成を探る。

【0013】

この構成によれば、高品質送信データと通常送信データとで異なる拡散率にすることができるので、高品質送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合及び通常送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合にそれぞれ個別に対応することができ、高品質送信データと通常送信データとで独立して誤り率特性の向上を図ることができる。

【0014】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記拡散手段は、前記高品質送信データの拡散率を前記通常送信データの拡散率よりも大きくする構成を探る。

【0015】

この構成によれば、受信側にて高品質送信データを精度良く復元することができるため、良好な品質を要求される高品質送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0016】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データと前記通常送信データとの符号多重数を独立に設定する構成を探る。

【0017】

この構成によれば、高品質送信データと通常送信データとで異なる符号多重数にすることができるので、高品質送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合及び通常送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合にそれぞれ個別に対応することができ、高品質送信データと通常送信データとで独立して誤り率特性の向上を図ることができる。

【0018】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データの符号多重数を前記通常送信データの符号多重数よりも少なくする構成を探る。

【0019】

この構成によれば、高品質送信データの送信電力を高くすることができるため、良好な品質を要求される高品質送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0020】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データと前記通常送信データに割り当てる拡散符号数を独立に設定する構成を探る。

【0021】

この構成によれば、高品質送信データと通常送信データとで異なる拡散符号数にすることができるので、高品質送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合及び通常送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合にそれぞれ個別に対応することができ、高品質送信データと通常送信データとで独立して誤り率特性の向上を図ることができる。

【0022】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データに割り当てる拡散符号数を前記通常送信データに割り当てる拡散符号数よりも多くする構成を探る。

【0023】

この構成によれば、高品質送信データにおけるダイバーシチ効果により、良好な品質を要求される高品質送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0024】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データと前記通常送信データとを各々独立して設定した変調方式を用いて変調する変調手段を具備する構成を探る。

【0025】

この構成によれば、前記高品質送信データと前記通常送信データとで異なる変調方式により変調することができるので、高品質送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合及び通常送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合に、それぞれ個別に対応することができ、高品質送信データと通常送信データとで独立して誤り率特性の向上を図ることができる。また、誤り率特性と伝送効率との両立を図ることができる。

【0026】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記変調手段は、前記高品質送信データまたは前記通常送信データのいずれか一方の変調方式を固定にし、前記高品質送信データまたは前記通常送信データのいずれか他方の変調方式を適応的に変化させる構成を探る。

【0027】

この構成によれば、高品質送信データを適応変調することにより、回線品質が良好な時には多値数が多い変調方式により変調することにより伝送効率を上げることができるので、さらなる伝送効率と誤り率特性の両立を図ることができる。

【0028】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記変調手段は、前記高品質送信データと前記通常送信データとの両方の変調方式を適応的に変化させる構成を探る。

【0029】

この構成によれば、高品質送信データの変調方式における多値数を、常に通常送信データの変調方式における多値数以下にして、高品質送信データと通常送信データの両方を適応変調することができるので、高品質送信データにおける誤り率特性を確実に向上させることができるとともに、さらなる伝送効率と誤り率特

性の両立を図ることができる。

【0030】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記変調手段は、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて変調方式を選択する構成を探る。

【0031】

この構成によれば、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて高品質送信データ及び通常送信データの変調方式を変更することができるので、誤り率特性と伝送効率との両立を図ることができるとともに、隣接チャネル干渉波の影響を最小限にすることができる。

【0032】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データと前記通常送信データとを独立してインタリープするインタリープ手段を具備し、前記並び替え手段は、インタリープ後の前記送信データを並び替える構成を探る。

【0033】

この構成によれば、高品質送信データと通常送信データとを独立にインタリープした後に並び替えを行うので、インタリープにより高品質送信データが両端周波数側のサブキャリアに配置されてしまうことを防ぐことができる。

【0034】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記並び替え手段は、直流点を含むサブキャリアに前記通常送信データが配置されるように前記送信データを並び替える構成を探る。

【0035】

この構成によれば、無線送信部の増幅器のアナログ回路により発生する直流オフセットの影響により、劣化する度合いが高い直流点を含むサブキャリアに、高品質送信データを配置しないので、高品質送信データの誤り率特性の劣化を防ぐことができる。

【0036】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データの送信電力を前記通常送信データの送信電力よりも高く設定する送信電力設定手段を具備する構成

を探る。

【0037】

この構成によれば、高品質送信データの送信電力を通常送信データの送信電力に比べて高くするので、高品質送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0038】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記送信電力設定手段は、前記高品質送信データと前記通常データの送信電力を可変にて設定する構成を探る。

【0039】

この構成によれば、高品質送信データの要求される誤り率特性の度合いに応じて送信電力を自由に設定することができるので、高品質送信データの誤り率特性を確実に向上させることができる。

【0040】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記送信電力設定手段は、前記高品質送信データ若しくは前記通常送信データとのいずれか一方の送信電力を可変にて設定する構成を探る。

【0041】

この構成によれば、高品質送信データ及び通常送信データの要求される誤り率特性の度合いに応じて送信電力を自由に設定することができるので、高品質送信データの誤り率特性を確実に向上させることができる。また、通常送信データの送信電力を可変に設定することとした場合は、通常送信データの誤り率特性が極端に劣化することを防止して、送信データ全体の誤り率特性の劣化を防ぐことができる。

【0042】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記送信電力設定手段は、送信電力を回線品質に応じて変化させる構成を探る。

【0043】

この構成によれば、回線品質が劣化しても、確実に送信データの誤り率特性の劣化を防止することができる。

【0044】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記直交周波数分割多重手段は、隣接チャネル干渉波受信レベルが高くなるほど前記高品質送信データを配置するサブキャリアの範囲を狭くする構成を探る。

【0045】

この構成によれば、隣接チャネル干渉波受信レベルが高い時には高品質送信データを配置するサブキャリアの範囲を狭くし、隣接チャネル干渉波受信レベルが低い時には高品質送信データを配置するサブキャリアの範囲を広くするので、隣接チャネル干渉波の影響により高品質送信データの誤り率特性が劣化することを確実に防ぐことができる。

【0046】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記送信データをターボ符号化する符号化手段を具備し、前記高品質送信データは、システムティックビットデータであり、前記通常送信データは、パリティビットデータである構成を探る。

【0047】

この構成によれば、ターボ符号化により誤り率特性を向上することができることに加えて、システムティックビットデータを中心周波数付近のサブキャリアに配置するので、伝送効率を低下させずに、さらなる誤り率特性の向上を図ることができる。

【0048】

本発明のマルチキャリア送信装置は、前記高品質送信データは、遠く離れた通信相手へ送信する送信データであり、前記通常送信データは、近くの通信相手へ送信する送信データである構成を探る。

【0049】

この構成によれば、回線品質が劣化する可能性が高い遠く離れたユーザへ送信する送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0050】

本発明のマルチキャリア送信装置における前記高品質送信データは、通信制御に使用される情報若しくは再送情報である構成を探る。

【0051】

この構成によれば、通信制御に用いる制御信号の誤り率特性の劣化により、通信不能になること若しくは誤り訂正回数の増加等による通信制御の遅延を防ぐことができる。また、再送情報を送信する信号の劣化による再送回数の増加を防ぐことにより、伝送効率を向上させることができる。

【0052】

本発明の基地局装置は、上記のいずれかに記載の送信装置を具備する構成を採る。

【0053】

この構成によれば、高品質送信データを、隣接チャネル干渉波の影響の少ない中心周波数付近のサブキャリアに配置したので、基地局装置から通信端末装置へ送信信号を送信する際に、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができる。また、基地局と通信端末装置との通信において、伝送効率と誤り率特性との両立を図ることができる。

【0054】

本発明の通信端末装置は、上記のいずれかに記載の送信装置を具備する構成を採る。

【0055】

この構成によれば、高品質送信データを、隣接チャネル干渉波の影響の少ない中心周波数付近のサブキャリアに配置したので、通信端末装置から基地局装置へ送信信号を送信する際に、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができる。また、基地局と通信端末装置との通信において、伝送効率と誤り率特性との両立を図ることができる。

【0056】

本発明のマルチキャリア送信方法は、送信データを良好な品質を要求される高品質送信データと前記高品質送信データ以外の通常送信データとに分ける工程と、中心周波数付近のサブキャリアに前記高品質送信データが配置されるように前

記送信データを並び替える工程と、並び替えた前記送信データを直交周波数分割多重して各サブキャリアに配置する工程と、を具備することである。

【0057】

この方法によれば、高品質送信データを、隣接チャネル干渉波の影響の少ない中心周波数付近のサブキャリアに配置したので、伝送効率を低下させずに、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができる。

【0058】

本発明のマルチキャリア送信方法は、前記送信データを拡散する工程を具備することである。

【0059】

この方法によれば、送信データは、拡散処理と直交周波数分割多重を行うO F DM-C DMA通信方式により送信されるので、周波数利用効率を低下させずに、他のセルからの干渉が存在する場合でも誤り率特性を向上させることができる。

【0060】

本発明のマルチキャリア送信方法は、前記高品質送信データと前記通常送信データとを各自独立して設定した変調方式を用いて変調する工程を具備することである。

【0061】

この方法によれば、前記高品質送信データと前記通常送信データとで異なる変調方式により変調することができるので、高品質送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合及び通常送信データの誤り率特性を向上させる必要がある場合に、それぞれ個別に対応することができる。また、伝送効率と誤り率特性との両立を図ることができる。

【0062】

本発明のマルチキャリア送信方法は、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて変調方式を選択する工程を具備することである。

【0063】

この方法によれば、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて高品質送信データ及び通常送信データの変調方式を変更することができるので、伝送効率と誤り率特性との両立を図ることができるとともに、隣接チャネル干渉波の影響を最小限にすることができる。

【0064】

本発明のマルチキャリア送信方法は、前記高品質送信データは、遠く離れた通信相手へ送信する送信データであり、前記通常送信データは、近くの通信相手へ送信する送信データであることである。

【0065】

この方法によれば、回線品質が劣化する可能性が高い遠く離れたユーザへ送信する送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0066】

本発明のマルチキャリア送信方法は、前記高品質送信データと前記通常送信データとを独立してインタリープする工程を具備することである。

【0067】

この方法によれば、高品質送信データと通常送信データとを独立にインタリープした後に並び替えを行うので、インタリープにより高品質送信データが両端周波数側のサブキャリアに配置されてしまうことを防ぐことができる。

【0068】

【発明の実施の形態】

本発明の骨子は、システムティックビット等の良好な品質が要求される送信データを、中心周波数付近のサブキャリアに配置することである。

【0069】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

【0070】

(実施の形態1)

図1は、本実施の形態に係るマルチキャリア送信装置100の構成を示す図であり、図2は、符号化部101の構成を示す図であり、図3は、各サブキャリアに対する送信データの配置を示す図である。

【0071】

マルチキャリア送信装置100は、符号化部101、変調部102、サブキャリア配置部103、IFFT部104、アンプ105、アンテナ106、FFT部107、復調部108及び送信電力制御部109とから主に構成される。

【0072】

分割手段である符号化部101は、例えばターボ符号器であり、入力した送信データの一部を符号化せずにシステムティックビットデータとして変調部102へ出力するとともに、入力した送信データの残りの一部に対して再帰畳み込み符号化を行って、パリティビットデータとして変調部102へ出力する。なお、符号化部101の詳細については、後述する。

【0073】

変調部102は、符号化部101から入力した高品質送信データであるシステムティックビットデータと通常送信データであるパリティビットデータとに対して各々変調処理を施し、変調したシステムティックビットデータとパリティビットデータとの各々をサブキャリア配置部103へ出力する。変調部102において用いられる変調方式は、回線品質によって適応的に変化せるものであり、16QAM若しくはQPSKが用いられる。そして、システムティックビットデータとパリティビットデータとの両方は、同一の変調方式によって変調される。なお、変調方式は、16QAM若しくはQPSKに限らず、16QAM及びQPSK以外の変調方式を用いても良い。

【0074】

並び替え手段であるサブキャリア配置部103は、送信データが配置されるサブキャリアの周波数領域内で、変調部102から入力したシステムティックビットデータが中心周波数付近のサブキャリアに配置され、パリティビットデータが両端付近のサブキャリアに配置されるように、システムティックビットデータとパリティビットデータとの並び替えを行う。システムティックビットデータとパリティビットデータとが配置されるサブキャリアの周波数軸上の領域は、サブキャリア配置部103に入力する隣接チャネル干渉波受信レベルに応じて変更される。即ち、隣接チャネル干渉波受信レベルが高い場合は、システムティックビット

トデータが、中心周波数F1を含む狭い周波数領域のサブキャリアに配置されるように送信データの並び替えを行う。一方、隣接チャネル干渉波受信レベルが低い場合は、システムティックビットデータが、中心周波数F1を含む広い周波数領域のサブキャリアに配置されるように送信データの並び替えを行う。そして、サブキャリア配置部103は、並び替えたシステムティックビットデータ及びパリティビットデータからなる送信データをIFFT部104へ出力する。

【0075】

直交周波数分割多重手段であるIFFT部104は、サブキャリア配置部103から入力した送信データに対して逆高速フーリエ変換（IFFT）処理を施すことにより、直交周波数分割多重してOFDM信号を生成し、生成したOFDM信号をアンテナ106から送信する。なお、各サブキャリアに対する送信データの配置の方法は、後述する。

【0076】

アンプ105は、IFFT部104から入力した送信データを、送信電力制御部109から制御された所定の送信電力にてアンテナ106から送信する。この時に、中心周波数付近のサブキャリアに配置されたシステムティックビットデータの送信電力を、両端付近のサブキャリアに配置されたパリティビットデータの送信電力よりも大きい送信電力にて送信する。

【0077】

FFT部107は、アンテナ106にて受信した受信データに対して、高速フーリエ変換（FFT）処理を施して復調部108へ出力する。

【0078】

復調部108は、FFT部107から入力した受信データを復調して受信データをえるとともに、復調した受信データを送信電力制御部109へ出力する。

【0079】

送信電力設定手段である送信電力制御部109は、復調部108から入力した受信データより送信電力を決定し、決定した送信電力にて送信データを送信するようにアンプ105に対して送信電力制御を行う。送信電力制御部109は、中心周波数付近のサブキャリアに配置されているシステムティックビットデータの

送信電力を、両端周波数側のサブキャリアに配置されているパリティビットデータの送信電力よりも大きくなるように送信電力制御を行う。これにより、送信電力は、回線品質によって変化させることができる。したがって、送信データは、回線品質に応じた送信電力にて送信される。

【0080】

次に、符号化部101の構成の詳細について、図2を用いて説明する。符号化部101は、インタリーバ201、畳み込み符号化部202及び畳み込み符号化部203とから主に構成される。

【0081】

インタリーバ201は、送信データを並び替える処理であるインタリープして畳み込み符号化部203へ出力する。

【0082】

畳み込み符号化部202は、送信データの一部を再帰畳み込み符号化して変調部102へ出力する。畳み込み符号化部202からの出力が、パリティビットデータである。

【0083】

畳み込み符号化部203は、インタリーバ201から入力した送信データの一部を再帰畳み込み符号化して変調部102へ出力する。畳み込み符号化部203からの出力が、パリティビットデータである。なお、符号化部101に入力した送信データの一部は、符号化されずにそのまま出力される。この出力がシステムティックビットデータである。

【0084】

次に、各サブキャリアに対する送信データの配置について、図3を用いて説明する。図3は、各サブキャリアを周波数軸上に配列したものであり、中心周波数F1を中心にして左右同一周波数幅に各サブキャリアが配置されている。図3のL1が、システムティックビットデータとパリティビットデータとからなる送信データが配置されるサブキャリアの周波数領域である。サブキャリア301、302は、端部のサブキャリアである。サブキャリア304からサブキャリア305までが、中心周波数付近のサブキャリアである。また、サブキャリア301か

らサブキャリア306まで及びサブキャリア302からサブキャリア307までが、端部付近のサブキャリアである。

【0085】

サブキャリア301よりも低い周波数側（図3の左側）及びサブキャリア302よりも高い周波数側（図3の右側）には、隣接チャネル干渉波が存在している。したがって、中心周波数F1からサブキャリア301、302へ向かうにしたがって隣接チャネル干渉波の影響が次第に大きくなり、これにより中心周波数F1からサブキャリア301、302へ向かうにしたがって誤り率特性が次第に劣化する。

【0086】

そして、IFFT部104にて周波数分割多重処理を行った後の送信データは、周波数領域W1、W3のサブキャリアにパリティビットデータが配置され、周波数領域W2のサブキャリアにシステムティックビットデータが配置される。システムティックビットデータが配置されるサブキャリアの周波数領域W2は、隣接チャネル干渉波の受信レベルに応じて変更される。即ち、隣接チャネル干渉波受信レベルが高い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W2の範囲を狭くし、隣接チャネル干渉波受信レベルが低い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W2の範囲を広くする。

【0087】

次に、送信データが、システムティックビットデータとパリティビットデータ以外である他の例について説明する。送信データが、システムティックビットデータとパリティビットデータ以外である他の例として、良好な品質が要求される制御情報若しくは再送情報等の送信データと通常の品質で良い制御情報及び再送情報以外の送信データとを各サブキャリアに配置する場合についても本実施の形態を適用できる。この場合には、符号化部101は、必ずしもターボ符号器でなくとも良く、ターボ符号器以外の符号器が適用できる。なお、制御情報は、通信制御に使用される情報であり、再送情報は、受信側においてデータに誤りが生じることにより正しく復調できない場合に、再度データを送信してもらう際の情報である。符号化部101は、良好な品質が要求される送信データと通常の品質で

良い送信データとに分けてサブキャリア配置部103へ出力する。

【0088】

サブキャリア配置部103は、中心周波数F1の付近のサブキャリアには良好な品質が要求される送信データが配置され、両端付近のサブキャリアには通常の品質で良い送信データが配置されるように送信データを並び替える。

【0089】

そして、IFFT部104によって直交周波数分割多重された送信データは、中心周波数F1の付近の周波数領域W2のサブキャリアには良好な品質が要求される送信データが配置され、両端付近の周波数領域W1、W3のサブキャリアには通常の品質で良い送信データが配置される。

【0090】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、中心周波数付近のサブキャリアにシステムティックビットデータを配置し、両端付近のサブキャリアにパリティビットデータを配置するので、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、良好な品質が要求される送信データの通信品質を向上させることができる。また、中心周波数付近のサブキャリアに制御情報若しくは再送情報等の良好な品質が要求される送信データを配置し、両端付近のサブキャリアに制御情報及び再送情報等以外の通常の品質で良い送信データを配置するので、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を向上させて、制御情報若しくは再送情報等の良好な品質が要求される送信データの通信品質を向上させることができる。また、中心周波数付近のサブキャリアに配置されているシステムティックビットデータの送信電力を、両端周波数側のサブキャリアに配置されているパリティビットデータの送信電力よりも大きくなるように送信電力制御を行うので、システムティックビットデータの誤り率特性を向上させることができる。

【0091】

なお、本実施の形態においては、復調結果を用いて回線品質に応じた送信電力制御を行うこととしたが、必ずしも復調結果に応じた送信電力制御を行う必要はなく、復調結果とは無関係に、送信電力を可変にて設定しても良い。また、本実

施の形態においては、システムティックビットデータとパリティビットデータとの両方の送信電力を可変にすることとしたが、システムティックビットデータとパリティビットデータとの両方の送信電力を可変にする場合に限らず、システムティックビットデータ若しくはパリティビットデータのいずれか一方の送信電力のみを可変にしても良い。また、システムティックビットデータの送信電力をパリティビットデータの送信電力よりも大きくしたが、システムティックビットデータの送信電力をパリティビットデータの送信電力よりも大きくする場合に限らず、システムティックビットデータとパリティビットデータとの送信電力を同じにしても良いし、パリティビットデータの送信電力をシステムティックビットデータの送信電力よりも大きくしても良い。また、送信データは、システムティックビットデータ及びパリティビットデータに限らず、システムティックビットデータ及びパリティビットデータ以外の要求される品質が異なるデータであっても良い。この場合は、符号化部101はターボ符号器以外の符号器が適用できる。

【0092】

(実施の形態2)

図4は、本発明の実施の形態2に係るマルチキャリア送信装置400の構成を示す図であり、図5及び図6は、各サブキャリアに対するデータの配置を示す図である。本実施の形態は、通信方式として、CDMAとマルチキャリアとを組合せた通信方式を使用する。

【0093】

第4世代に有力な通信方式として、CDMAとOFDMとを組合せたOFDM-CDMA通信方式がある。OFDM-CDMA通信方式は、逆拡散処理により他のセルからの干渉を低減できるため、他のセルからの干渉が存在する場合でも通信可能であることが、干渉波が存在すると全く通信できなくなるOFDMと大きく異なる。なお、本実施の形態は、図4において拡散部401及び逆拡散部402を設ける構成が図1と相違しており、その他の構成は図1と同一構成であるので、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0094】

OFDM-CDMA通信方式では、サブキャリアを複数のグループに分けて、

サブキャリアグループ毎にユーザを割り当てる方法がある。

【0095】

拡散部401は、サブキャリア配置部103から入力した送信データに対して拡散比をサブキャリア数の1/5にして拡散処理を施し、5つのグループからなる符号分割多重信号を生成してIFFT部104へ出力する。

【0096】

IFFT部104は、拡散部401から入力した符号分割多重信号毎に逆高速フーリエ変換処理を施すことにより、拡散後のチップを互いに直交関係にある複数のサブキャリアに振り分けて配置させる。

【0097】

逆拡散部402は、復調部108より入力した受信データに対して逆拡散処理を施して受信データをえるとともに、逆拡散処理した受信データを送信電力制御部109へ出力する。

【0098】

送信電力制御部109は、逆拡散部402から入力した受信データより送信電力を決定し、決定した送信電力にて送信データを送信するようにアンプ105に對して送信電力制御を行う。送信電力制御部109は、中心周波数付近のサブキャリアに配置されているシステムティックビットデータの送信電力を、両端周波数側のサブキャリアに配置されているパリティビットデータの送信電力よりも大きくなるように送信電力制御を行う。

【0099】

拡散処理及び多重化する際は、拡散率、符号多重数及び拡散符号数を全てのサブキャリア若しくは全てのユーザについて同一とする。ここで、拡散符号数は、1つのユーザに割り当てる拡散符号の数である。また、符号多重数は、キャリア毎の多重数であり、何ユーザ（何コード）多重するかによって決まる。

【0100】

図5は、5つのグループに分けた符号分割多重信号を各サブキャリアに配置した状態を示した図であり、図6は、図5のようにグループ分けした各サブキャリアの配置を図3と同様の方法により示した図である。グループ1（G1）は、サ

ブキャリア#1～#mからなり、グループ2 (G2) は、サブキャリア#m+1～#2mからなり、グループ3 (G3) は、サブキャリア#2m+1～#3mからなり、グループ4 (G4) は、サブキャリア#3m+1～#4mからなり、グループ5 (G5) は、サブキャリア#4m+1～#m5からなる。周波数領域W10にはグループ1のサブキャリアが含まれており、周波数領域W11にはグループ2、3、4のサブキャリアが含まれており、周波数領域W12にはグループ5のサブキャリアが含まれる。

【0101】

一般に、隣接チャネル干渉波の影響は、グループ1、5のサブキャリアが一番大きく、グループ2、4のサブキャリアが次に大きく、グループ3のサブキャリアが一番少ない。したがって、グループ1、5のサブキャリアには、通常の品質で構わないパリティビットデータが配置され、グループ2、3、4のサブキャリアには、良好な品質が要求されるシステムティックビットデータが配置される。

【0102】

次に、拡散処理及び多重化する際の拡散率、符号多重数及び拡散符号数を、上記のように全てのサブキャリア若しくは全てのユーザで同一にする場合以外の他の例について説明する。拡散率、符号多重数及び拡散符号数を全てのサブキャリア若しくは全てのユーザで同一にする場合以外の例として、以下の方法が適用可能である。

【0103】

最初に、拡散率を送信データに応じて変化させる場合について説明する。拡散部401は、任意の拡散比を選択することが可能である。また、拡散部401は、システムティックビットデータとパリティビットデータとの拡散比を各々独立して選択し、選択した拡散比にてシステムティックビットデータとパリティビットデータとを各々独立して拡散処理することが可能である。拡散比を大きくした場合は、1シンボルについての拡散チップのタップ長が長くなるので、逆拡散の精度を高くすることができ、受信側で精度良く送信データを復元することができる。

【0104】

したがって、図5及び図6より、中心周波数付近のサブキャリアであるグループ2、3、4に配置されたシステムティックビットデータの拡散比を両端周波数側のサブキャリアであるグループ1、5に配置されたパリティビットデータの拡散比よりも大きくする。なお、システムティックビットデータの拡散比をパリティビットデータの拡散比よりも大きくする場合に限らず、パリティビットデータの拡散比をシステムティックビットデータの拡散比よりも大きくしても良い。

【0105】

次に、符号多重数を送信データに応じて変化させる場合について説明する。IFT部104は、任意の符号多重数を選択することが可能である。また、IFT部104は、システムティックビットデータとパリティビットデータとの符号多重数を各々独立して選択し、選択した符号多重数にてシステムティックビットデータとパリティビットデータとを各々独立して符号多重化することが可能である。符号多重数を少なくしたサブキャリアは、他のサブキャリアより送信電力は低い。このため、さらに送信電力を高くすることが可能であり、隣接チャネル干渉波やアナログフィルタの劣化が存在する場合の誤り率特性をさらに向上させることが可能である。

【0106】

したがって、図5及び図6より、中心周波数付近のサブキャリアであるグループ2、3、4に配置されたシステムティックビットデータの符号多重数を両端周波数側のサブキャリアであるグループ1、5に配置されたパリティビットデータの符号多重数よりも少なくする。なお、システムティックビットデータの符号多重数をパリティビットデータの符号多重数よりも少なくする場合に限らず、パリティビットデータの符号多重数をシステムティックビットデータの符号多重数よりも少なくしても良い。

【0107】

次に、割り当て拡散符号数を送信データに応じて変化させる場合について説明する。拡散部401は、任意の拡散符号数を選択することが可能である。また、拡散部401は、システムティックビットデータとパリティビットデータとで割り当てる拡散符号数を各々独立して選択し、選択した拡散符号数にてシステムテ

イックビットデータとパリティビットデータとを各々独立して拡散処理することが可能である。マルチパス環境下では、遅延波によって拡散符号間の直交性が崩れるが、拡散符号によって直交性の崩れが大きい符号と直交性の崩れが小さい符号とがある。このため、マルチコード伝送によって、ダイバーシチ効果が得られ、誤り率特性をさらに向上させることが可能である。

【0108】

したがって、図5及び図6より、中心周波数付近のサブキャリアであるグループ2、3、4に配置されたシステムティックビットデータの符号多重数を両端周波数側のサブキャリアであるグループ1、5に配置されたパリティビットデータの符号多重数よりも多くする。なお、システムティックビットデータに割り当てる拡散符号数をパリティビットデータに割り当てる拡散符号数よりも多くする場合に限らず、パリティビットデータに割り当てる拡散符号数をシステムティックビットデータに割り当てる拡散符号数よりも多くしても良い。

【0109】

ここで、システムティックビットデータが配置されるサブキャリアの周波数領域W11は、隣接チャネル干渉波の受信レベルに応じて変更される。即ち、隣接チャネル干渉波受信レベルが高い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W11の範囲を狭くし、隣接チャネル干渉波受信レベルが低い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W11の範囲を広くする。周波数領域W11の変更に応じて、グループ1～5に割り当てられているサブキャリアも変更される。

【0110】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、上記実施の形態1の効果に加えて、送信データを拡散処理して直交周波数分割多重化するOFDM-CDMA通信方式により送信することとしたので、周波数利用効率を低下させずに、他のセルからの干渉が存在する場合でも誤り率特性を向上させることができる。また、システムティックビットデータの拡散比をパリティビットデータの拡散比よりも大きくする場合は、受信側にてシステムティックビットデータを精度良く復元することができるため、良好

な品質を要求されるシステムティックビットデータの誤り率特性を向上させることができる。また、システムティックビットデータの符号多重数をパリティビットデータの符号多重数よりも少なくする場合は、システムティックビットデータの送信電力を高くすることができるため、良好な品質を要求されるシステムティックビットデータの誤り率特性を向上させることができる。また、システムティックビットデータの符号多重数をパリティビットデータの符号多重数よりも多くする場合は、システムティックビットデータにおけるダイバーシチ効果により、良好な品質を要求されるシステムティックビットデータの誤り率特性を向上させることができる。

【0111】

なお、本実施の形態においては、サブキャリアを5つのグループに分けたが、必ずしも5つのグループに分ける必要はなく、5つのグループ以外のグループ数でも良い。また、送信データは、システムティックビットデータ及びパリティビットデータに限らず、システムティックビットデータ及びパリティビットデータ以外の要求される品質が異なるデータであっても良い。この場合は、符号化部101はターボ符号器以外の符号器が適用できる。

【0112】

(実施の形態3)

図7は、本発明の実施の形態3に係るマルチキャリア送信装置700の構成を示す図であり、図8は、制御部702の構成を示す図である。本実施の形態は、誤り訂正符号としてターボ符号を用い、システムティックビットデータとパリティビットデータとを各自独立して適応変調する点を特徴とするものである。

【0113】

なお、本実施の形態は、図7において変調部701を変調部701a及び変調部701bとから構成し、制御部702を設ける構成が図1と相違しており、その他の構成は図1と同一構成であるので、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0114】

制御部702は、RSSI (Received Signal Strength Indicator) 信号レベ

ルに基づいて設定した変調方式にする制御信号を変調部701a及び変調部701bへ出力する。制御部702は、変調方式を設定する際に、システムティックビットデータを変調する際の変調方式を設定するためのしきい値 α とパリティビットデータを変調する際の変調方式を設定するためのしきい値 β との2種類のしきい値を用いる。そして、RSSI信号レベルがしきい値 α 以上であれば、回線品質が良好なものと推定し、システムティックビットデータの変調方式を16QAM変調方式に設定する制御信号を変調部701aへ出力する。また、RSSI信号レベルがしきい値 β 以上であれば、回線品質が良好なものと推定し、パリティビットデータの変調方式を16QAM変調方式に設定する制御信号を変調部701bへ出力する。

【0115】

一方、制御部702は、RSSI信号レベルがしきい値 α 未満であれば、回線品質が低下しているものと推定し、システムティックビットデータの変調方式をQPSK変調方式に設定する制御信号を変調部701aへ出力する。また、RSSI信号レベルがしきい値 β 未満であれば、回線品質が低下しているものと推定し、パリティビットデータの変調方式をQPSK変調方式に設定する制御信号を変調部701bへ出力する。なお、現在通信中であって、且つ、制御部702における判定の結果、現在用いている変調方式を継続して用いる場合は、制御部702は、制御信号を変調部701a及び変調部701bへ出力しない。なお、制御部702の構成の詳細については後述する。

【0116】

変調部701aは、制御部702から入力した制御信号に基づいて、符号化部101から入力したシステムティックビットデータに対して、QPSK変調若しくは16QAM変調を行って、サブキャリア配置部103へ出力する。

【0117】

変調部701bは、制御部702から入力した制御信号に基づいて、符号化部101から入力したパリティビットデータに対して、QPSK変調若しくは16QAM変調の適応変調を行って、サブキャリア配置部103へ出力する。

【0118】

次に、制御部702の構成の詳細について、図8を用いて説明する。制御部702は、第1の判定制御部801及び第2の判定制御部802とから主に構成される。

【0119】

第1の判定制御部801は、RSSI信号レベルが、あらかじめ設定したしきい値 α 以上であれば変調方式を16QAMに設定する制御信号を変調部701aへ出力する。一方、RSSI信号レベルが、しきい値 α 未満であれば変調方式をQPSKに設定する制御信号を変調部701bへ出力する。

【0120】

第2の判定制御部802は、RSSI信号レベルが、あらかじめ設定したしきい値 β 以上であれば変調方式を16QAMに設定する制御信号を変調部701aへ出力する。一方、RSSI信号レベルが、しきい値 β 未満であれば変調方式をQPSKに設定する制御信号を変調部701bへ出力する。

【0121】

システムティックビットデータは、パリティビットデータよりも良好な通信品質が要求されるため、しきい値 α は、しきい値 β よりも低いRSSI信号レベルに設定する。

【0122】

変調部701a、701bにおいて、独立して適応変調されたシステムティックビットデータとパリティビットデータは、IFFT部104において直交周波数分割多重化された後は、両端付近のサブキャリアにはパリティビットデータが配置され、中心周波数F1付近のサブキャリアにはシステムティックビットデータが配置される。

【0123】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、上記実施の形態1の効果に加えて、システムティックビットデータとパリティビットデータとを通信品質に応じて適応変調するため、良好な品質が要求されるシステムティックビットデータを変調多値数が少ない変調方式により変調するとともに、パリティビットデータを変調多値数が多い変調方式

により変調することにより、パリティビットデータを両端付近のサブキャリアに配置してもパリティビットデータの誤り率特性の劣化を低下させることができる。また、システムティックビットデータとパリティビットデータとを通信品質に応じて適応変調するため、誤り率特性の向上と伝送効率の向上との両立を図ることができる。また、制御部702において、システムティックビットデータとパリティビットデータは、異なるしきい値 α 及びしきい値 β と比較するので、通信品質の変化に柔軟に対応させて誤り率特性の向上と伝送効率の向上との両立を図ることができる。

【0124】

なお、本実施の形態においては、システムティックビットデータとパリティビットデータとの両方を適応変調することとしたが、システムティックビットデータまたはパリティビットデータのいずれか一方を固定した変調方式とし、いずれか他方のみを適応変調するようにしても良い。また、本実施の形態は、制御部702において、RSSI信号レベルとしきい値 α 及びしきい値 β とを比較することとしたが、RSSI信号に限らずRSSI信号以外の回線品質を示す信号等としきい値 α 及びしきい値 β とを比較するようにしても良い。また、本実施の形態は、しきい値 α 及びしきい値 β の値を異なる値にしたが、しきい値 α としきい値 β を同一の値に設定しても良いし、しきい値 α の値が、しきい値 β の値よりも小さくなるようにしても良い。また、16QAM及びQPSK以外のBPSK等の変調方式により適応変調を行っても良い。また、システムティックビットデータを変調部701aで変調するとともにパリティビットデータを変調部701bで変調することとしたが、1つの変調部によりシステムティックビットとパリティビットとを独立して適応変調するようにしても良い。また、送信データは、システムティックビットデータ及びパリティビットデータに限らず、システムティックビットデータ及びパリティビットデータ以外の要求される品質が異なるデータであっても良い。この場合は、符号化部101はターボ符号器以外の符号器が適用できる。

【0125】

(実施の形態4)

図9は、本発明の実施の形態4に係るマルチキャリア送信装置900の構成を示す図である。本実施の形態は、誤り訂正符号としてターボ符号を用い、システムティックビットデータとパリティビットデータとを各々独立して適応変調することに加えて、パリティビットデータについては隣接チャネル干渉波受信レベルとしきい値 β とを比較して変調方式を設定する点を特徴とするものである。

【0126】

なお、本実施の形態は、図9において変調部701を変調部701a及び変調部701bとから構成し、制御部901、902を設ける構成が図1と相違しており、その他の構成は図1と同一構成であるので、同一の符号を付してその説明を省略する。また、変調部701a、701bの構成及び動作は、上記実施の形態3と同一であるので、その説明を省略する。

【0127】

制御部901は、RSSI信号レベルに基づいて設定した変調方式にする制御信号を変調部701aへ出力する。即ち、RSSI信号レベルがしきい値 α 以上であれば、システムティックビットデータの変調方式を16QAM変調方式に設定する制御信号を変調部701aへ出力する。

【0128】

一方、制御部901は、RSSI信号レベルがしきい値 α 未満であれば、システムティックビットデータの変調方式をQPSK変調方式に設定する制御信号を変調部701aへ出力する。

【0129】

制御部902は、隣接チャネル干渉波受信レベルに基づいて設定した変調方式にする制御信号を変調部701bへ出力する。即ち、隣接チャネル干渉波受信レベルがしきい値 β 以上であれば、パリティビットデータの変調方式をQPSK変調方式に設定する制御信号を変調部701bへ出力する。隣接チャネル干渉波受信レベルを測定する方法は、図示しない無線部の隣接チャネル除去用フィルタの前後のレベル差を検出する方法若しくは送信も受信もしていない時間帯に、隣接チャネルの周波数に周波数を切り替えてレベルを測定する方法等がある。

【0130】

一方、制御部902は、隣接チャネル干渉波受信レベルがしきい値 β 未満であれば、パリティビットデータの変調方式を16QAM変調方式に設定する制御信号を変調部701bへ出力する。

【0131】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、上記実施の形態1及び実施の形態3の効果に加えて、隣接チャネル干渉波受信レベルに応じてパリティビットデータを適応変調するため、隣接チャネル干渉波受信レベルが大きい時に、パリティビットデータを変調多值数の少ない変調方式にして変調できるので、パリティビットデータを両端付近のサブキャリアに配置してもパリティビットデータの誤り率特性の劣化を低下させることができる。

【0132】

なお、本実施の形態においては、システムティックビットデータとパリティビットデータとの両方を適応変調することとしたが、システムティックビットデータまたはパリティビットデータのいずれか一方を固定した変調方式とし、いずれか他方のみを適応変調するようにしても良い。また、本実施の形態は、制御部901において、RSSI信号レベルとしきい値 α とを比較することとしたが、RSSI信号に限らずRSSI信号以外の回線品質を示す信号等としきい値 α とを比較するようにしても良く、例えば隣接チャネル干渉波受信レベルとしきい値 α とを比較するようにしても良い。また、16QAM及びQPSK以外の変調方式により適応変調を行っても良い。また、システムティックビットデータを変調部701aで変調するとともにパリティビットデータを変調部701bで変調することとしたが、1つの変調部によりシステムティックビットとパリティビットとを独立して適応変調するようにしても良い。また、送信データは、システムティックビットデータ及びパリティビットデータに限らず、システムティックビットデータ及びパリティビットデータ以外の要求される品質が異なるデータであっても良い。この場合は、符号化部101はターボ符号器以外の符号器が適用できる。

【0133】

(実施の形態5)

図10は、本発明の実施の形態5に係るマルチキャリア送信装置1000の構成を示す図である。基地局から比較的遠く離れたユーザほど、多くのセルからの隣接チャネル干渉波の影響を強く受けるため、回線品質の劣化が大きい。本実施の形態は、基地局から比較的遠く離れたユーザのデータは中心周波数付近のサブキャリアに配置することを特徴とする。

【0134】

本実施の形態は、図10においてシリアル／パラレル（以下「S／P」と記載する）変換部1001を設ける構成が図1と相違しており、その他の構成は図1と同一構成であるので、その説明を省略する。

【0135】

S／P変換部1001は、図示しないユーザ情報蓄積部から入力したユーザ情報に基づいて、近くにいるユーザへ送信する送信データと遠くにいるユーザへ送信する送信データとを分けて、各々の送信データをサブキャリア配置部103へ出力する。

【0136】

サブキャリア配置部103は、近くにいるユーザへ送信する送信データは、図3における周波数領域W1のサブキャリアに配置され、遠くにいるユーザへ送信する送信データは周波数領域W2のサブキャリアに配置されるように送信データの並び替えを行い、並び替えて送信データをIFFT部104へ出力する。

【0137】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、中心周波数付近のサブキャリアに遠くにいるユーザへ送信する送信データを配置し、両端付近のサブキャリアに近くにいるユーザへ送信する送信データを配置するので、伝送効率を低下させずに、基地局から比較的遠く離れたユーザの送信データの回線品質を向上させることができる。また、中心周波数付近のサブキャリアに配置されている遠くのユーザへ送信する送信データの送信電力を、両端周波数側のサブキャリアに配置されている近くにいるユーザへ送信する送信データの送信電力よりも大きくなるように送信電力制御を行うので

、遠くのユーザへ送信する送信データの誤り率特性を向上させることができる。

【0138】

なお、本実施の形態においては、ターボ符号器を用いて誤り訂正する場合とターボ符号器以外の符号器を用いて誤り訂正する場合の両方に適応することができる。ターボ符号器を用いて誤り訂正する場合は、基地局から比較的遠く離れたユーザの送信データを配置したサブキャリアのうち、さらに中心周波数付近のサブキャリアにシステムティックビットデータを配置するようにしても良い。また、本実施の形態は、S/P変換部1001から出力される送信データを、基地局近くにいるユーザの送信データと基地局から比較的遠く離れたユーザの送信データとの2つに分けて出力することとしたが、基地局近くにいるユーザの送信データと基地局から比較的遠く離れたユーザの送信データとの2つに分ける場合に限らず、ユーザの距離等に応じて3つ以上の送信データに分けて出力するようにしても良い。

【0139】

(実施の形態6)

図11は、本発明の実施の形態6に係るマルチキャリア送信装置1100の構成を示す図である。本実施の形態は、システムティックビットデータとパリティビットデータとを独立してインタリープした後に、システムティックビットデータとパリティビットデータとを各キャリアに配置するための並び替えを行う点を特徴とするものである。

【0140】

従来のマルチキャリア伝送を用いた通信方式では、周波数軸方向にインタリープを行うことができるため、インタリープは全サブキャリア一括して行っている。しかし、このような従来方法では、通常のデータよりも良好な品質が要求されるデータの一部が、両端付近のサブキャリアに配置されるため、通常のデータよりも良好な品質が要求されるデータの誤り率の改善効果が低下する。

【0141】

本実施の形態は、図11においてインタリープ部1101、1102を設ける構成が図1と相違しており、その他の構成は図1と同一構成であるので、その説

明を省略する。

【0142】

インタリープ部1101は、符号化部101にてターボ符号化されたシステムティックビットデータをインタリープして変調部102へ出力する。

【0143】

インタリープ部1102は、符号化部101にてターボ符号化されたパリティビットデータをインタリープして変調部102へ出力する。

【0144】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、上記実施の形態1の効果に加えて、システムティックビットデータとパリティビットデータとを独立してインタリープした後にサブキャリア配置部103により送信データの並び替えを行うので、インタリープによりシステムティックビットデータが両端周波数側のサブキャリアに配置されてしまうことを防止することができるため、システムティックビットデータの誤り率特性を向上させることができる。また、インタリープを行うことにより、隣接チャネル干渉波の影響を受けやすい両端周波数側のサブキャリアに配置されるパリティビットデータに連続して誤りが生じても、パリティビットデータを正しく復調することができる。また、中心周波数F1付近のサブキャリアに配置されるシステムティックビットデータに連続して誤りが生じても、システムティックビットデータを正しく復調することができる。

【0145】

なお、本実施の形態においては、ターボ符号器を用いて誤り訂正することとしたが、ターボ符号器を用いて誤り訂正する場合に限らず、ターボ符号器以外の符号器を用いて誤り訂正した後に、良好な品質が要求される送信データと通常の品質で良い送信データとに分けて、良好な品質が要求される送信データと通常の品質で良い送信データとを各々独立してインタリープしても良い。

【0146】

(実施の形態7)

図12は、本発明の実施の形態7に係る送信データの各サブキャリに対する配

置を示した図である。一般にOFDM-CDMA通信方式の無線装置では、図示しない無線送信部の増幅器に設けられているアナログ回路により直流オフセットが発生するので、直流点付近のサブキャリアにより伝送された信号の誤り率は、他のサブキャリアにより伝送された信号の誤り率よりも劣化する。

【0147】

本実施の形態は、この点に着目して、直流点を含むサブキャリアには良好な品質を要求される送信データを配置しないようにした。なお、マルチキャリア送信装置の構成は図1と同一構成であるため、その説明は省略する。

【0148】

サブキャリア配置部103は、直流点P1を含むサブキャリア1201を除いた中心周波数F1付近の領域W21、W22のサブキャリアに良好な品質が要求されるシステムティックビットデータが配置され、両端付近の領域W20、W23及び直流点P1を含むサブキャリア1201にパリティビットデータが配置されるように送信データの並び替えを行う。そして、IFFT部104にて直交周波数分割多重された送信データは、図12に示すように、各サブキャリアに配置される。

【0149】

システムティックビットデータが配置されるサブキャリアの周波数領域W21、W22は、隣接チャネル干渉波の受信レベルに応じて変更される。即ち、隣接チャネル干渉波受信レベルが高い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W21、W22の範囲を狭くし、隣接チャネル干渉波受信レベルが低い場合は、システムティックビットデータが配置される周波数領域W21、W22の範囲を広くする。

【0150】

このように、本実施の形態におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法によれば、上記実施の形態1の効果に加えて、中心周波数F1のサブキャリアにはシステムティックビットデータを配置しないので、直流オフセットの影響により誤り率特性が劣化することを防ぐことができる。また、送信データは、システムティックビットデータ及びパリティビットデータに限らず、システ

マティックビットデータ及びパリティビットデータ以外の要求される品質が異なるデータであっても良い。この場合は、符号化部101はターボ符号器以外の符号器が適用できる。

【0151】

なお、本実施の形態においては、直流点P1は中心周波数F1と同じ周波数上に存在することとしたが、直流点P1は中心周波数F1と同じ周波数上に存在する場合に限らず、直流点と中心周波数とが異なる周波数上に存在する場合にも適用可能である。

【0152】

上記実施の形態1から実施の形態7におけるマルチキャリア送信装置及びマルチキャリア送信方法は、基地局装置及び通信端末装置に適用することが可能である。

【0153】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を格段に向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態1に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図2】

本発明の実施の形態1に係る符号化部の構成を示すブロック図

【図3】

各マルチキャリアに対するデータの配置を示す図

【図4】

本発明の実施の形態2に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図5】

各サブキャリアに対するデータの配置を示す模式図

【図6】

各サブキャリアに対するデータの配置を示す図

【図7】

本発明の実施の形態3に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図8】

本発明の実施の形態3に係る制御部の構成を示す図

【図9】

本発明の実施の形態4に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図10】

本発明の実施の形態5に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図11】

本発明の実施の形態6に係るマルチキャリア送信装置の構成を示すブロック図

【図12】

各マルチキャリアにおけるデータの配置を示す図

【符号の説明】

101 符号化部

102 変調部

103 サブキャリア配置部

104 IFFT部

105 アンプ

109 送信電力制御部

401 拡散部

701a、701b 変調部

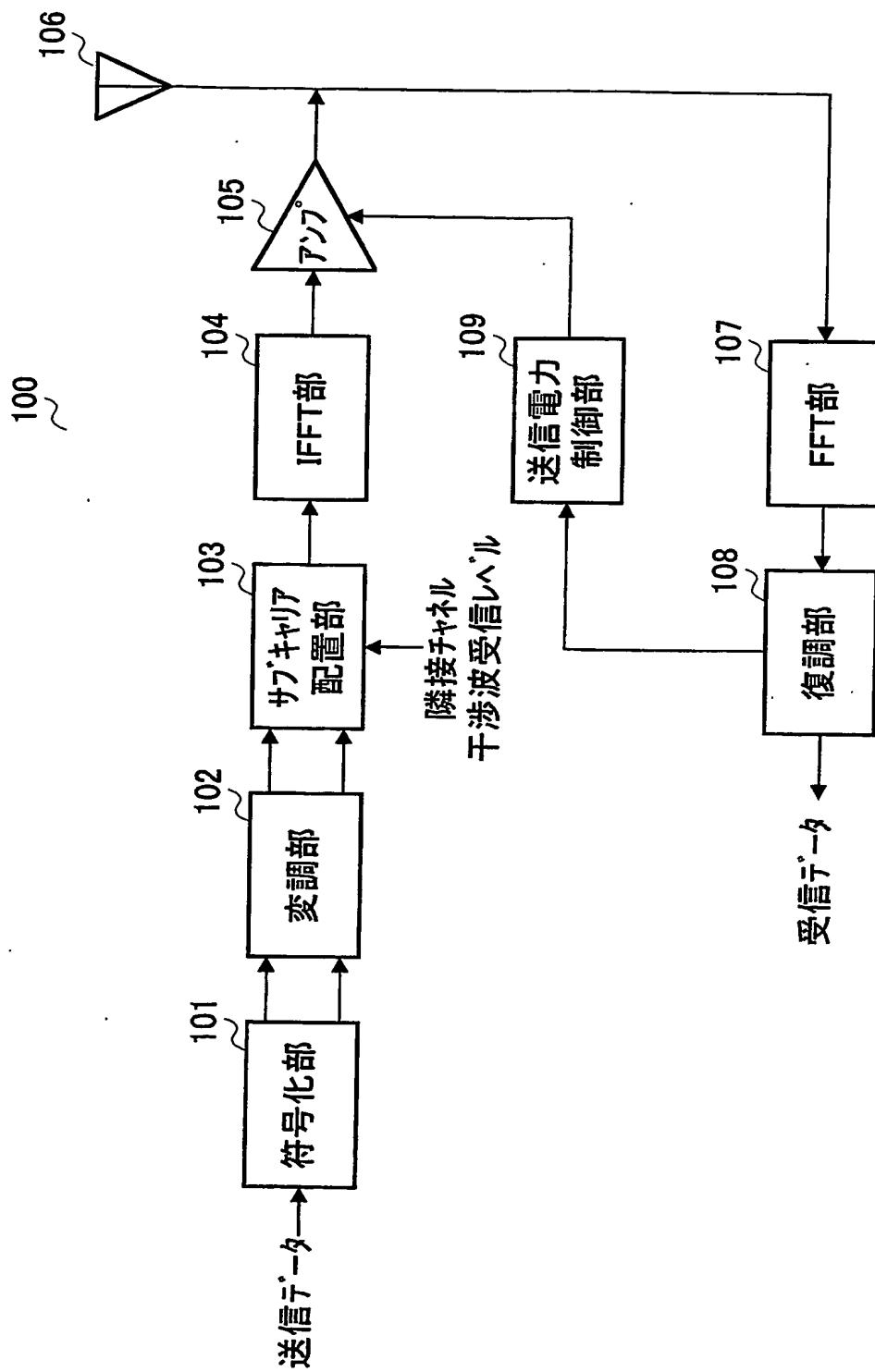
702、901、902 制御部

1101、1102 インタリープ部

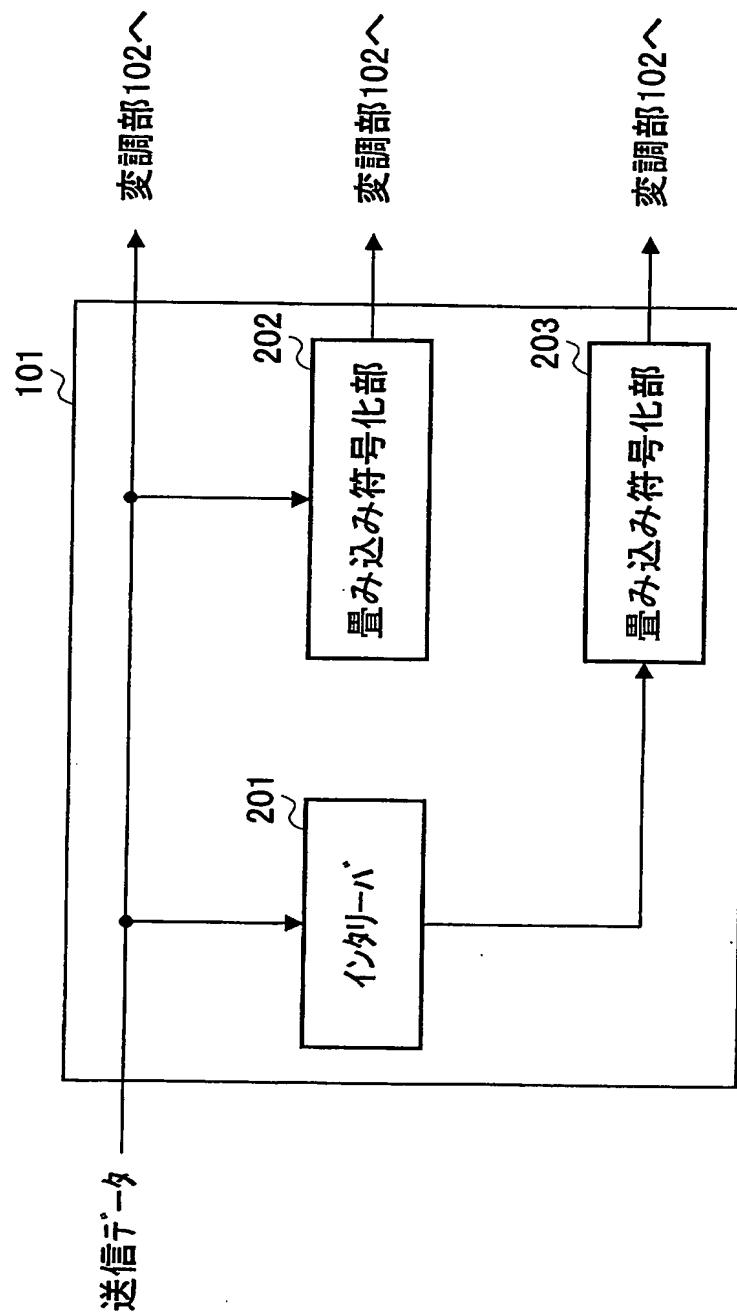
【書類名】

図面

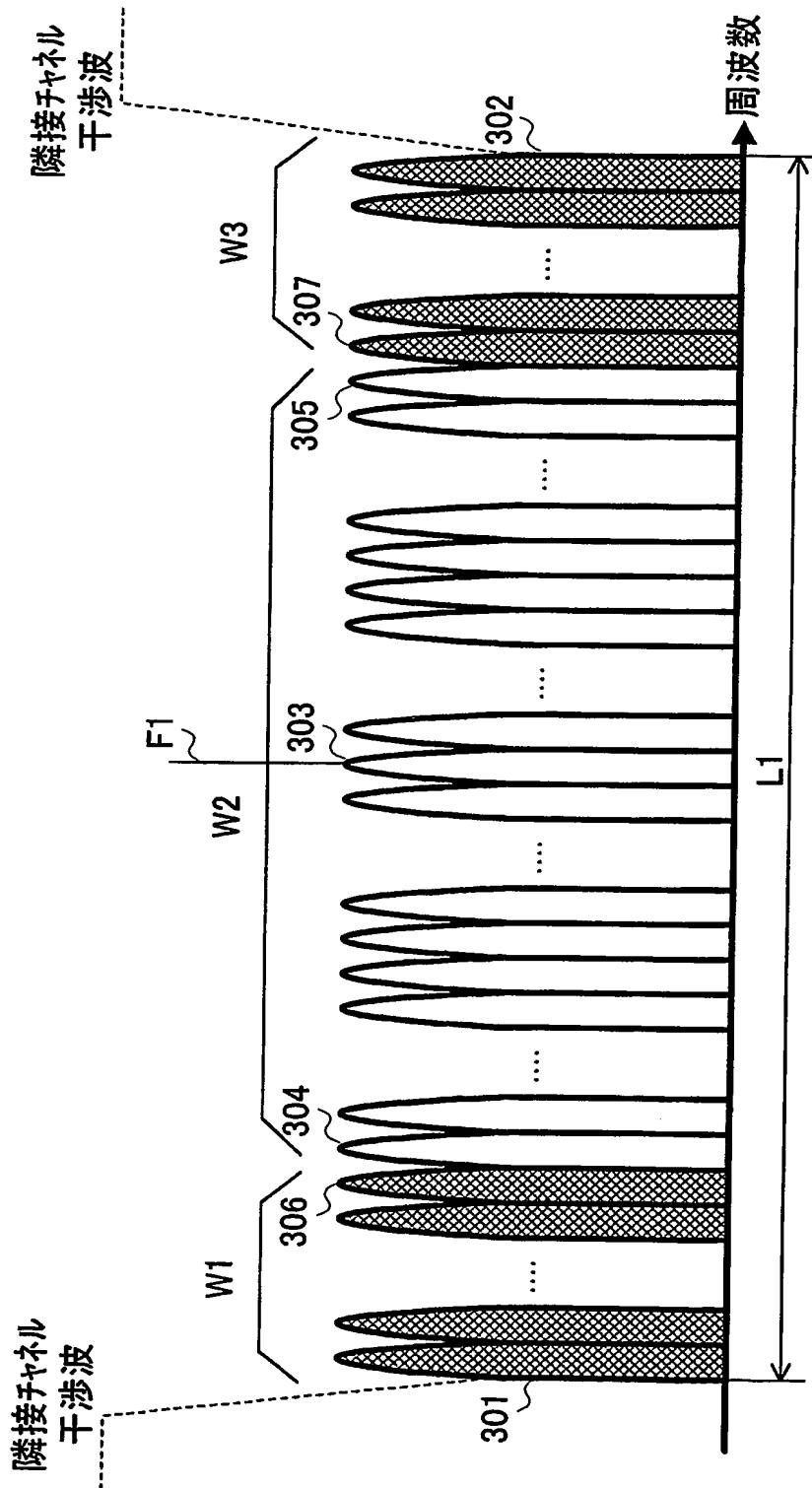
【図1】



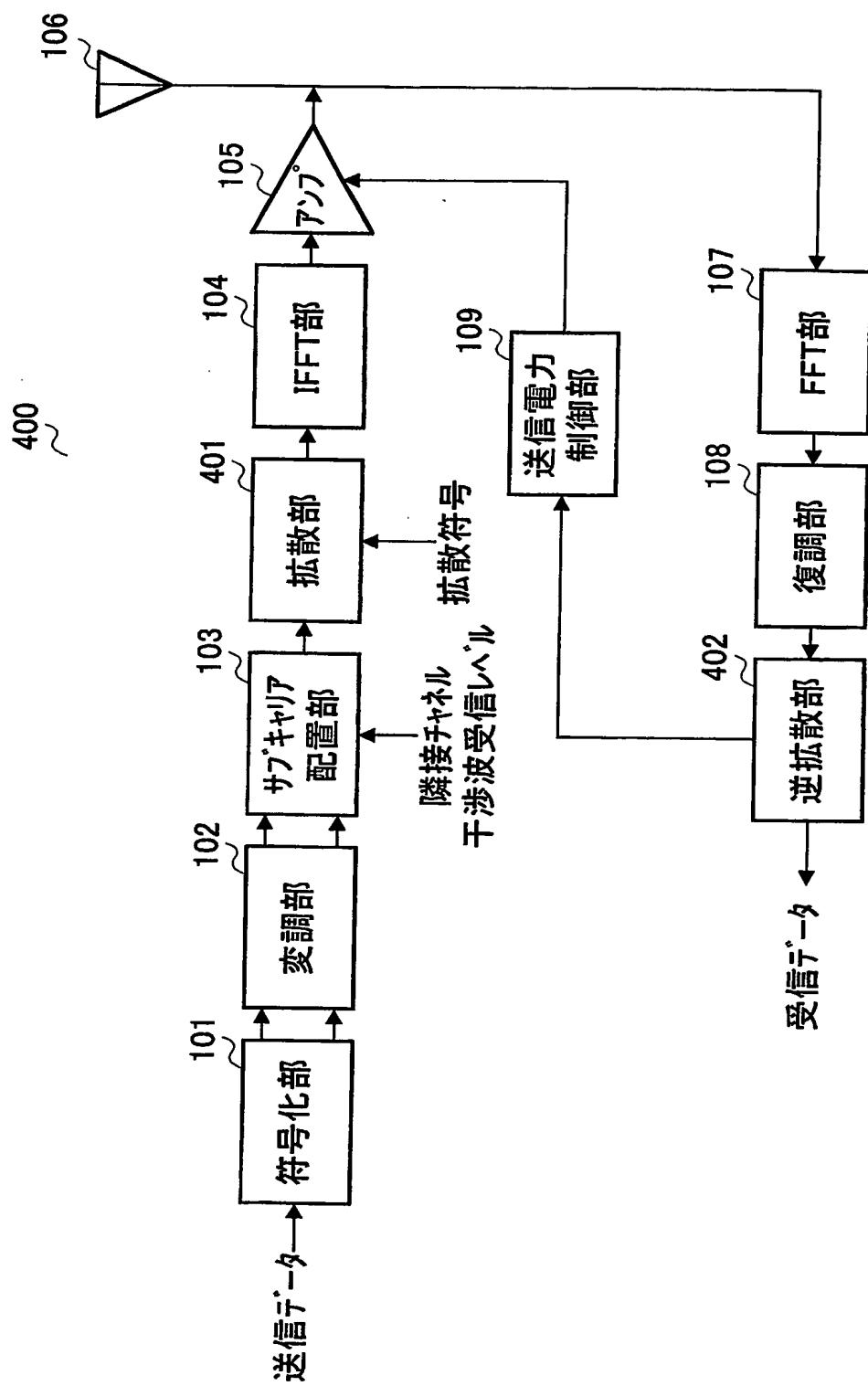
【図 2】



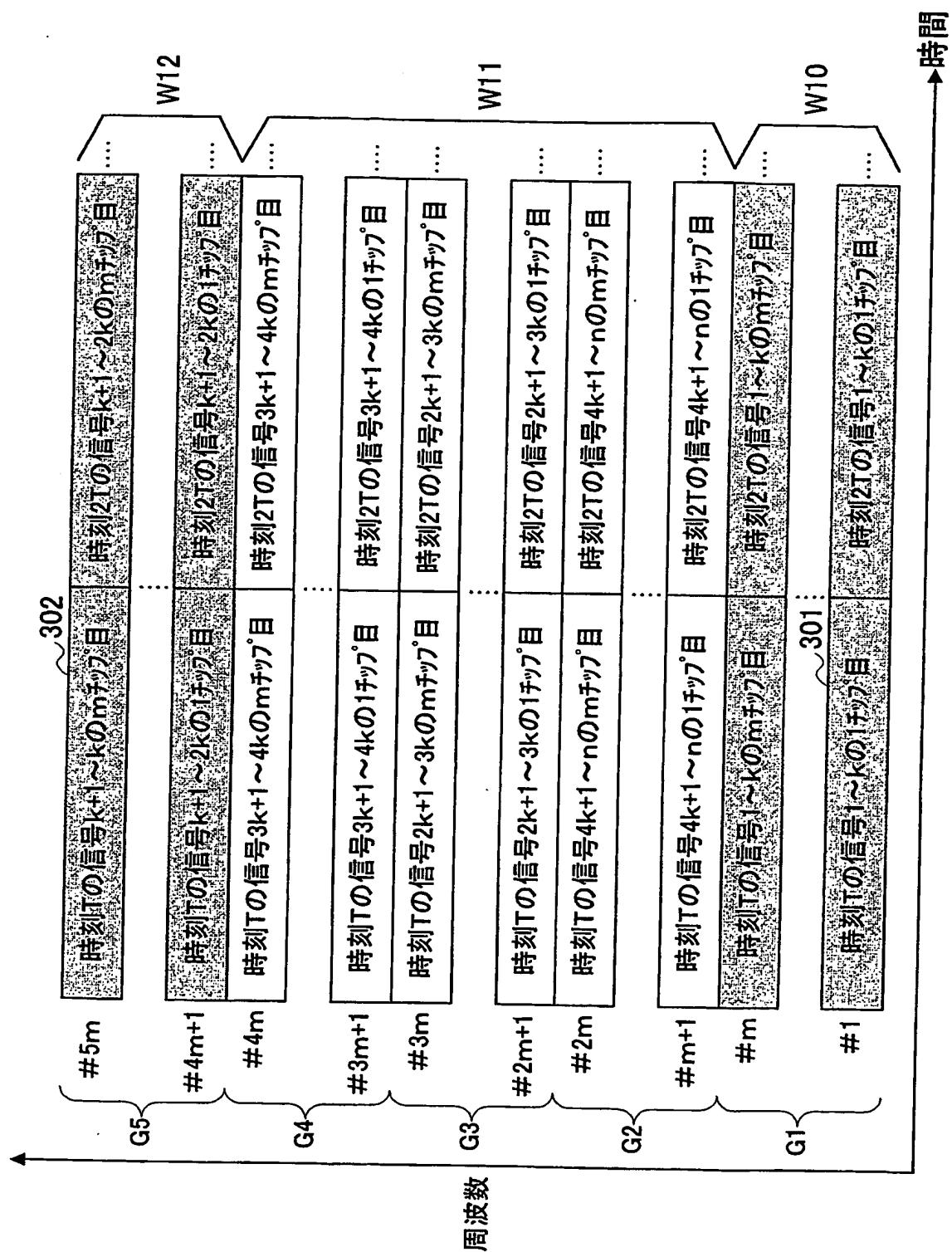
【図3】



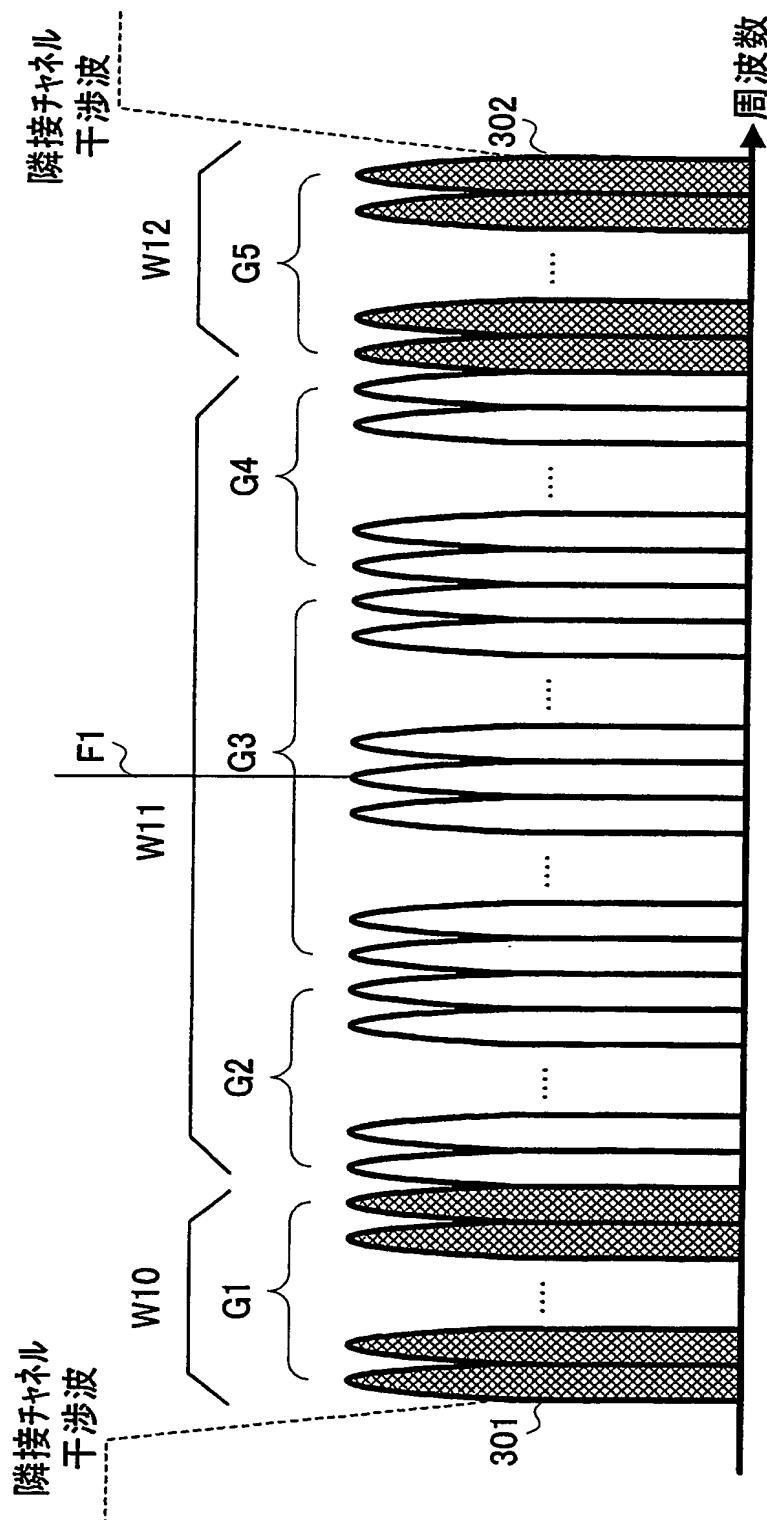
【図4】



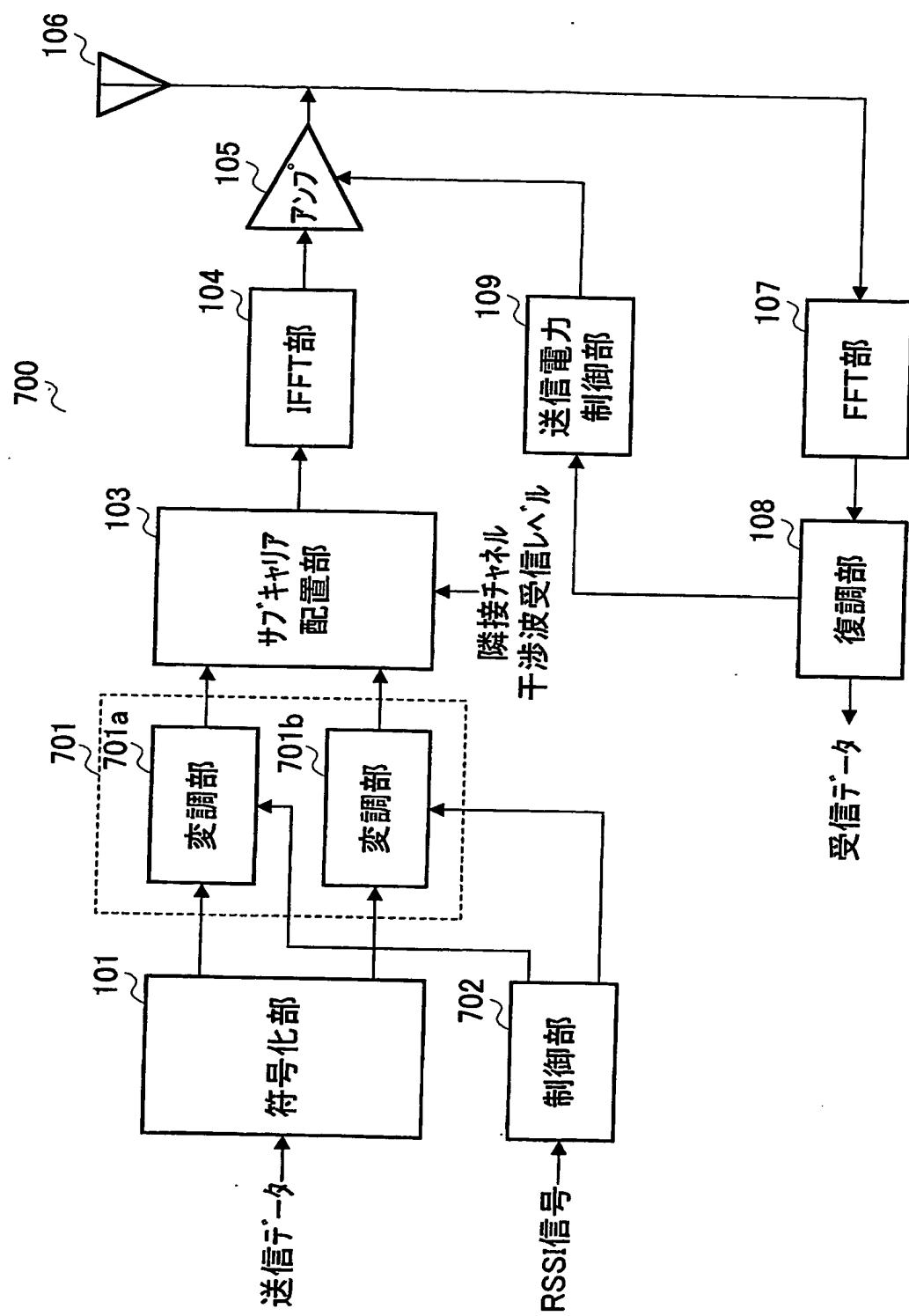
【圖 5】



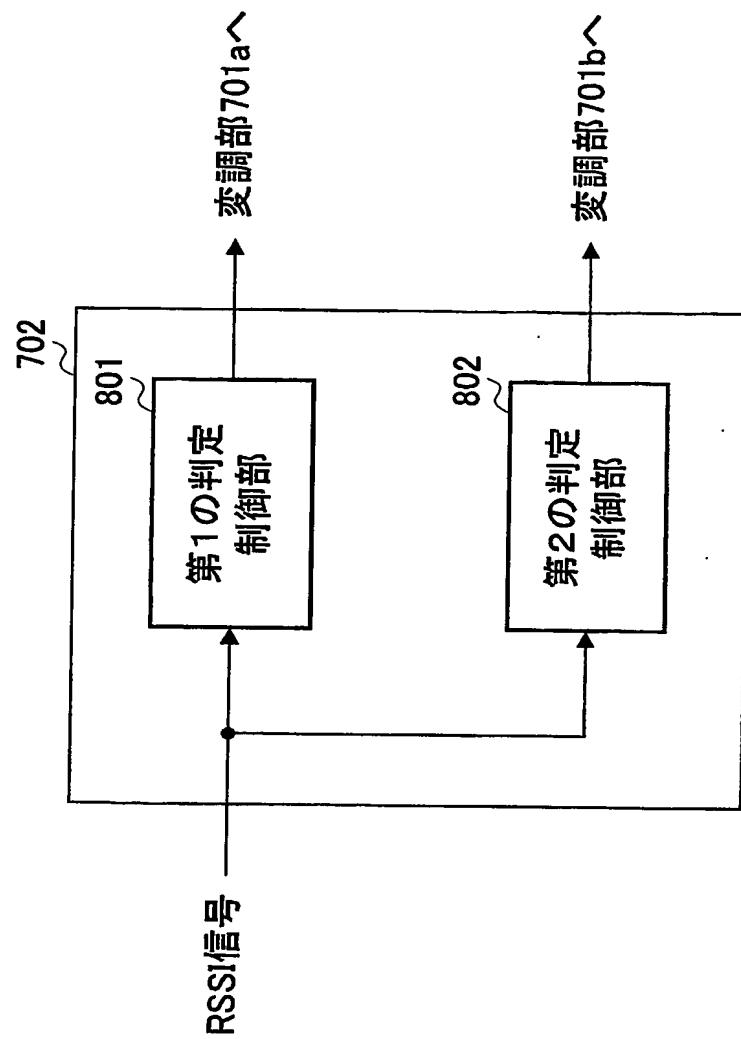
【図6】



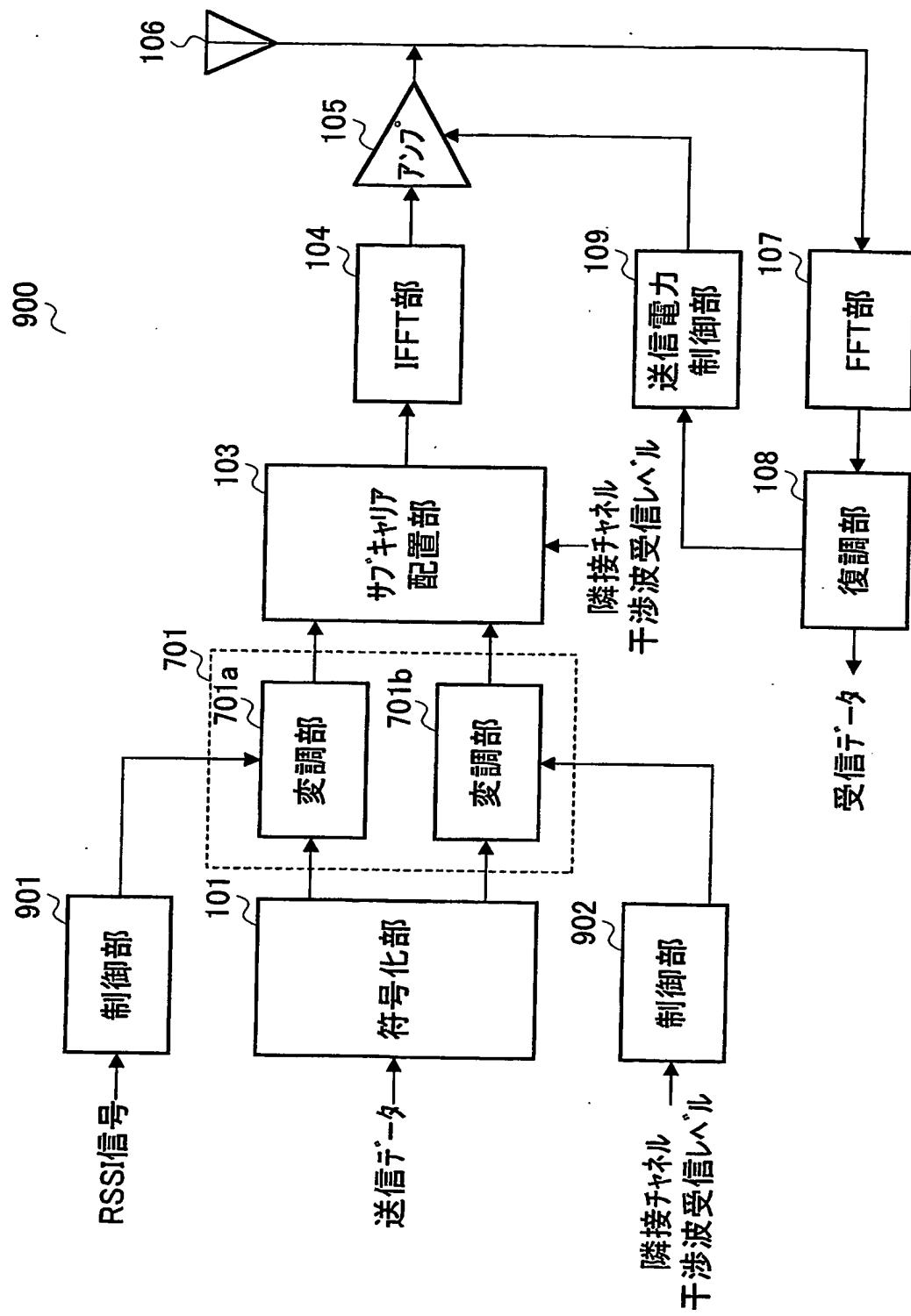
【図7】



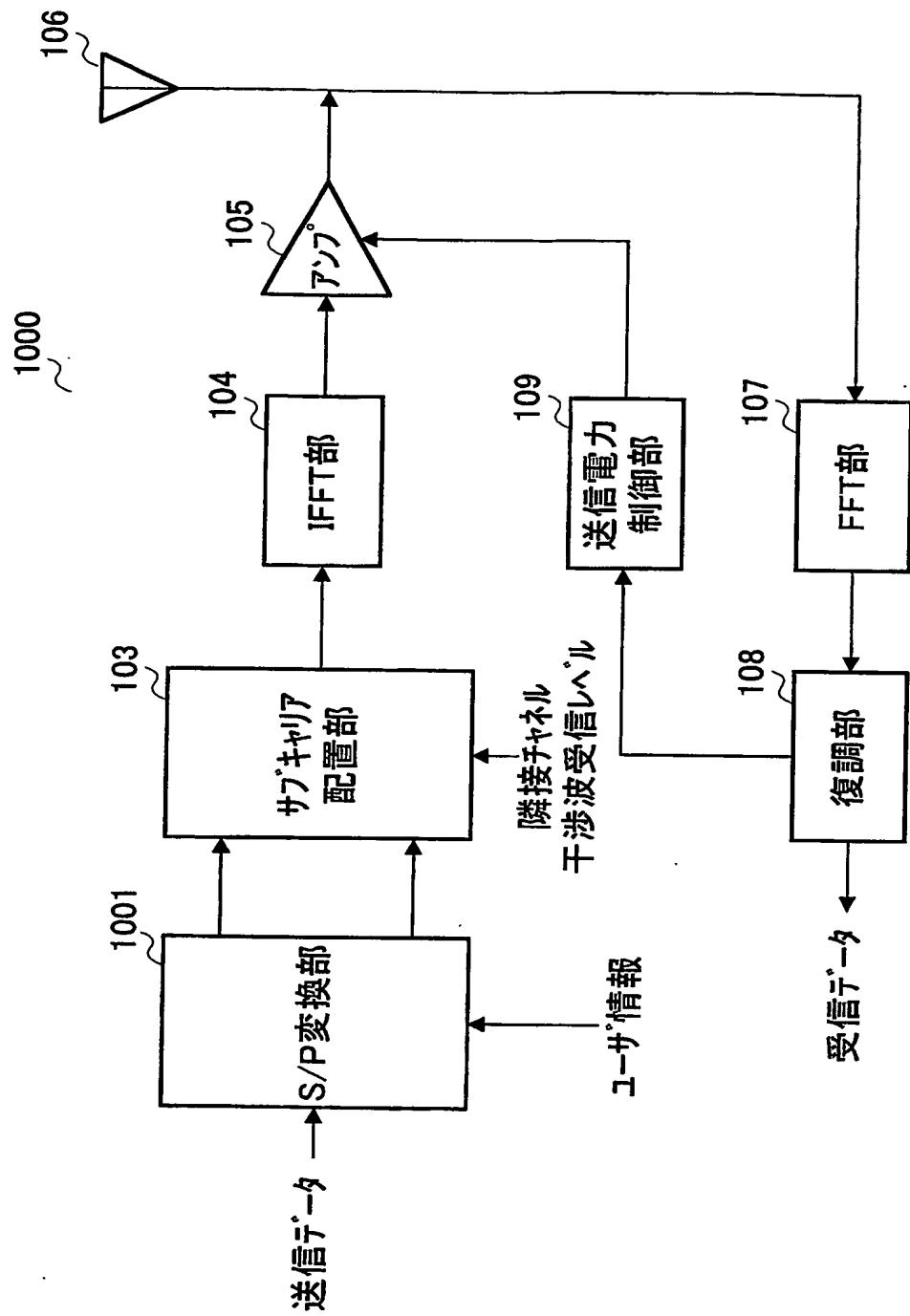
【図8】



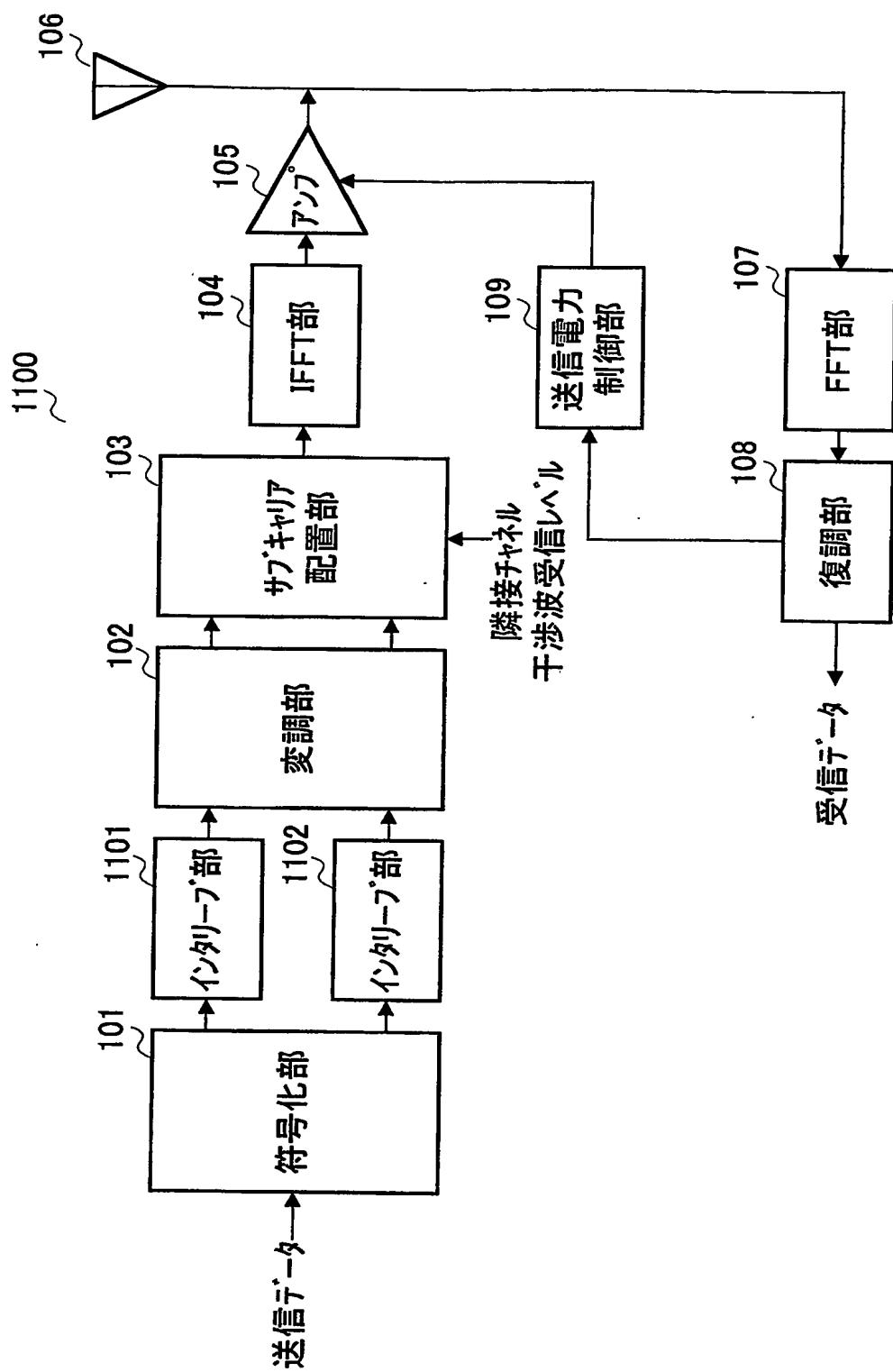
【図9】



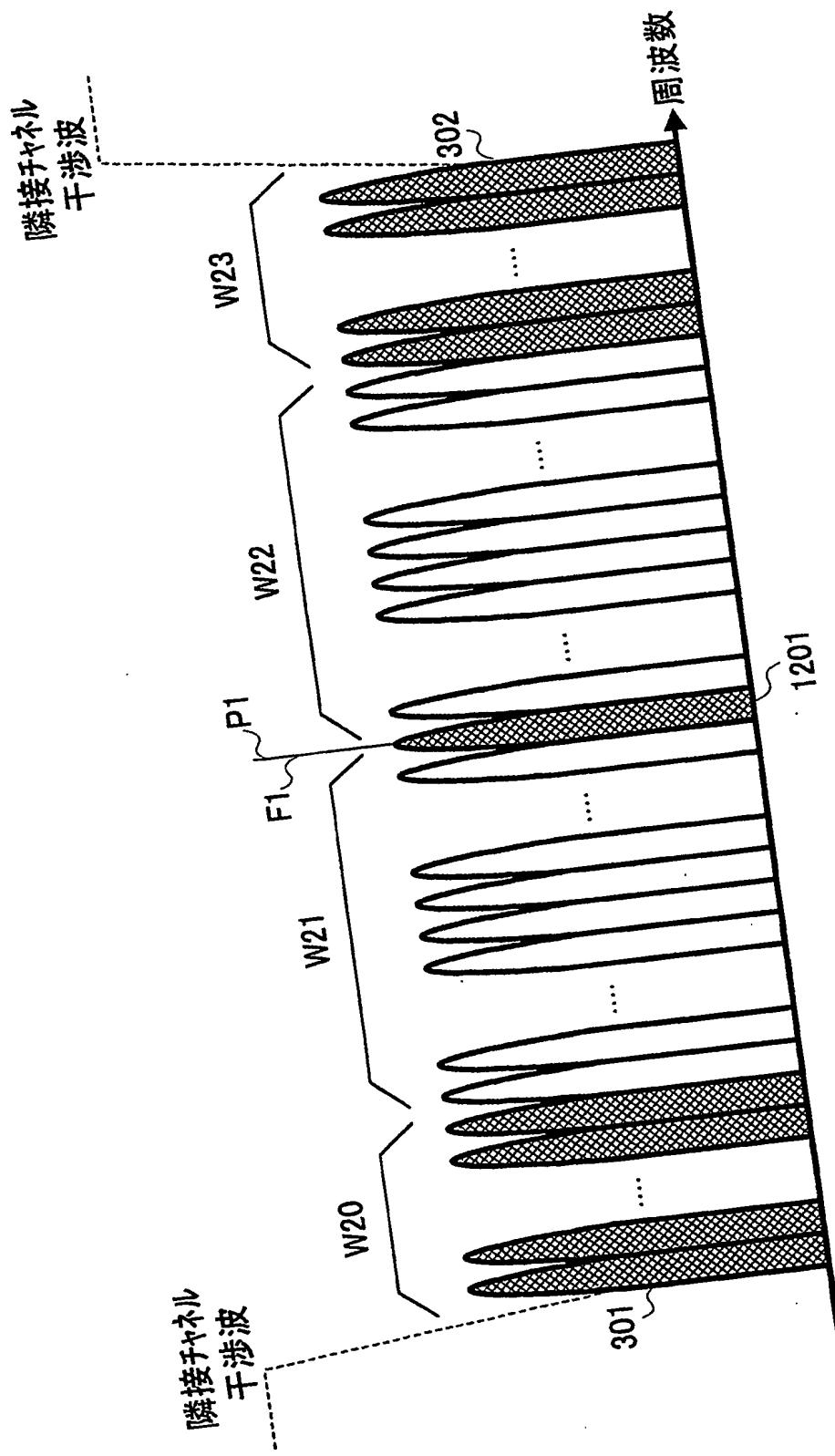
【図10】



【図11】



【図12】



【書類名】

要約書

【要約】

【課題】 良好な品質が要求される送信データの誤り率特性を格段に向上させて、良好な品質が要求される送信データの品質の低下を防ぐこと。

【解決手段】 符号化部101は、送信データをターボ符号化してパリティビットデータと高品質が要求されるシステムティックビットデータとを出力する。変調部102は、パリティビットデータとシステムティックビットデータとを変調する。サブキャリア配置部103は、システムティックビットデータが中心周波数付近のサブキャリアに配置され、パリティビットデータが両端付近のサブキャリアに配置されるように送信データを並び替える。IFFT部104は、送信データを直交周波数分割多重して、各サブキャリアにパリティビットデータとシステムティックビットデータとを配置する。

【選択図】

図1

2002-297534

出願人履歴情報

識別番号

[000005821]

1. 変更年月日

[変更理由]

住 所

氏 名

1990年 8月28日

新規登録

大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器産業株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.